魅力ある学校づくりをめざして

～ 子どもたちに「生きる力」を育むことを学校内外のあらゆる教育資源を最大限に活用して取り組む ～

相模原市立内出中学校　**髙野　良彦　職員一同**

1　はじめに

本校は神奈川県下３番目の政令市相模原市のほぼ中央に位置している。生徒数５５０人の中規模校であり、本年に創立３０周年を迎える。住宅地と自然豊かな環境にあるが、創立以来生徒指導に課題を抱える学校でもある。

2　主題設定の理由

学校の現状から生徒指導を根幹にすえて『子どもたちに「生きる力」を育むことを学校内外のあらゆる教育資源を最大限に活用して取り組む』を主題とした。

それは、学校の現状を考えたときに生徒指導が真っ先に改善すべき課題であり、このことを抜きには他の取り組みは意味をなさないと考えるからである。

また、「生きる力」の要素である「確かな学力」については、教師相互の授業改善の取り組みや、きめ細かな指導の工夫を通して迫りたい。「豊かな心」については、学校生活のさまざまな活動に充実感を持たせることやほめたり、認めたりする場面を教師側が意図的に設定する取り組みを通して迫りたい。

3　研究の仮説

全教職員による「全員野球」で取り組むことは、全教職員が同じ思い、同じ方向性で生徒へ向き合うことを意味する。同じ指導方針で、同じ思いで生徒とかかわることである。「茶髪、ピアス、異装等は直してから教育活動に参加させる」という一点について全教職員で指導に当たれば、時間は相当かかるであろうが、学校内に「秩序」を再構築できると考えた。

そしてこの「秩序」が構築されてから「学力向上」さらに生徒一人ひとりの「自己有用感」を持たせる取り組みを展開していくことが出来れば、学校改善は進み、生徒にとっても教職員にとっても「魅力ある学校」となっていくと考える。

4　研究の実際

（１）「ダメなものはダメ」の合い言葉で全員野球で指導

４年前に着任した本校は、いわゆる荒れた学校であった。授業エスケープ、校舎内での喫煙、授業中にもかかわらず正門前にたむろする生徒たち、校舎内にはアメ、ガムそして吐いた唾など。始業式や入学式も雑然とした中で行われた。

学校の課題は生徒指導であり、生徒にとって安心して安全な学校を構築することであった。まず、学校の中に「秩序」を取り戻すこと、再構築することである。

それで、やることはひとつ。正門前にたむろすことをやめさせること。そして卒業式での異装いわゆる特攻服などの参加を認めないこと。このことだけを全教職員で何年かかるか分からないが実践していこうと職員会議で校長から話をし、問題行動には全教職員で対応していくこととした。

このことは全校生徒にも集会の時に話をし、理解を求めた。さらに保護者にむけては保護者会や機会あるごとに同様の話をし、また、学校だより等で地域へも周知を図っていった。

【参考資料１　学校だより】

内出中学校だより

内出中学校の校長室から

No.１２ 平成２２年　６月３０日発行

生徒諸君に告ぐ

○　私たち内出中学校の教職員は、縁あってこの学校に赴任してきて、縁あって君たちを担任したり、部活動を指導したり、学校生活をともにしながら、君たちが大人になるための手助けをしているところである。

○　「環境が人をつくる。その環境は人がつくる。」とはよく言われることである。それで、本年度の内出中学校では、学校作業員さん、事務の先生を含めて、すべての教職員が次の６つをきっちり、しっかり指導していくことを改めて確認した。この内出中学校を改善することが、一人ひとりの成長に欠かせないと信じているからである。

○　このことをすべての先生方が同じ思いで君たちに指導に当たる。

○　生徒の一人ひとりはこのことをしっかり受け止め、私たちの思いを受け止めて欲しいと思う。そして、君たち一人ひとりと、私たち先生方と一緒にこの内出中学校を改善していこうではないか。時間はかかるが、根気強くできるまで続ける覚悟である。

内出中学校改善のための６つの具体的な取り組みについて

1　学校は、そこで生活する人（生徒、教職員、来校される保護者、地域の方々）にとって誰にも安全で安心して生活することができる場所でなければならない。
　そのために、
　○　暴力行為は認めないし、許さないことを徹底する。
　○　異装、茶髪等については、直してから教育活動に参加させるように指導する。
　○　課業中に正門前や学校周辺にたむろすることを止めさせるように指導する。
2　時間を守ることに取り組む。
　○　授業の始めと終わりなどの時間を守る。（チャイム着席に取り組む）
　○　その他の時間についても時間を守る。
　　・部活動終了後の下校時間。
　　・全校集会時の時間。
　　・遅刻等をしないこと。
3　うわばきのかかとつぶしをなくす。
4　清掃時には、生徒も教職員も清掃担当場所へ行くようにする。
5　生徒や教職員が、がんばっているところをさまざまな手だてで積極的に紹介する。
6　一人ひとりに分かる授業に取り組む。
　○　一時間、一時間の授業のねらいを明確にして授業に取り組む。
　○　一時間、一時間の授業の中に生徒の活動場面（考える場面など）を設定した授業展開に取り組む。
　○　生徒同士、生徒と教師との関わり合いのある授業展開に取り組む。
　○　一時間、一時間の授業の中で具体的に生徒を認めたり、ほめたりするなどの評価のある授業に取り組む。

【後記】このことは、折に触れて保護者や地域の方々に話してきました。ご理解と支援を是非。

「ダメなものはダメ」というシンプルでわかりやすいメッセージを全教職員が同じ思いで「全員野球」で取り組んだ。正門前のたむろの指導には、ほぼ一年間かかった。教職員が粘り強く、生徒達と接してくれたことが大きかった。「ダメなものはダメ」と毅然とした態度で対応したが、生徒を一人も見捨てないという方針で根気強く生徒達と接し、常に課題のある生徒達と関わりを持つように努めた教職員の努力が大きかった。

（２）全教職員の公開授業の実践

学校が本当に良くなるためには生徒指導が機能するだけではなく、生徒が学校生活の大半の時間を過ごす授業の質を高めることである。

そこで、正門前のたむろへの指導と並行して全教職員による公開授業の実践と研究協議をスタートさせた。

職員会議で全員による公開授業の意義、授業後の研究協議の進め方、協議の報告等について校長から説明し、「望ましい授業」のあり方について研修を行った。また、授業について「望ましい授業のための５つの視点」としてまとめ、全教職員で同一歩調で取り組むことを確認してスタートした。

～望ましい授業のための５つの視点～

1　単元目標を達成するために適切な単元計画を作成し、指導の過程を大切にする。
　ア　子どもの側に立った目標を設定する。
　イ　単元計画や指導のプロセスを大切にした構成とする。
　ウ　単元目標を達成するための適切な単元計画とする。
2　一時間の授業のねらいを明確にして授業に取り組む。
　ア　一時間の授業の目標が具体的で、明確になるようにする。
　イ　子どもの側に立った目標にする。
3　一時間の授業の中に子どもの活動場面を設定した授業展開に取り組む。
4　子ども同士、子どもと教師との関わりのある授業展開に取り組む。
5　一時間の授業の中で具体的に子どもを認めたり、ほめたりするなどの評価のある授業に取り組む。
　ア　具体的に子どもを認めたり、ほめたりなどの場面がある授業を展開する。
　イ　一時間の評価規準は、高々1つか2つ。主体は指導であることを忘れないようにする。
　ウ　できる評価をできるところから実践する。
　エ　まずＢ規準を毎時間の目標に照らして適切に設定する。

本校にはベテラン教職員から新採用等の若手教員までおり、経験や力量にはかなりの幅がある。そのため、一時間一時間の授業を構

成するために必要な項目をリストアップしてまとめたものである。この「望ましい授業のための５つの視点」は保護者や地域の方々さらには子どもたちへも周知し､「先生方がこのような姿勢で授業に取り組んでいる」と機会あるごとに説明している。

またこの「５つの視点」については、生徒の実態、教職員の現状等を勘案しながら毎年加除修正を加えて今日に至っている。

公開授業については、特設の時間を設定するのではなく、あくまでも通常日課の中で公開授業をすることとし、授業に空きのある教職員が参観するようにした。

突発的な生徒指導等で実践が難しい状況ではあったが｢できることをできるところから｣の姿勢でとにかく継続して実践を続けていった。これは、生徒指導が厳しい状況にあるからこそ授業研究を実践することで学校改善を図りたいという思いからである。

公開授業後にはその日のうちに放課後、授業者と参観者によるふり返りを校長室で行うようにした。公開授業の実際はおおよそ次の通りである。

①公開授業は、必ず校長が参観出来る日に設定してもらう。

②授業者は指導略案を作成し、当日の朝までに全教職員の机上へ配付し、都合のつく教員が参観する。

③研究協議では、まず参観者から授業について評価できる点を順に発表していく。内容が尽きたところで課題や改善点について同様に参観者が順に発表していく。

④協議の最後に授業者から自評及び質問等を述べる。協議は一時間を越えないようにする。

⑤研究協議で出された意見や感想は、授業者が公開授業のふり返りとしてＡ４版用紙一枚にまとめて全教職員へ配付する。

（３）「２分前行動」を合い言葉に自主的な活動を促進する指導

着任１年目にはとにかく正門前のたむろを解消するという一点のみに絞って全教職員で取り組んできた。教職員の頭が下がるほどの熱意とがんばりでほぼ一年間で収束させることができた。

そこで、２年目にはさまざまな取り組みを全面的に展開することでさらに学校改善を図ることとした。

正門前のたむろを指導していく中で、他の生徒達も自然と落ち着いた学校生活になっていった。しかしながら、学習に向かう姿勢はまだまだ不十分であり、あらゆることに受け身的な姿勢で臨む者が多く、自主的、前向きな姿勢はなかなか学校全体として見ることができなかった。

そこで、学校生活のあらゆる場面で時間を生徒自身が意識して生活することを通して、生徒たちの中から自主性を育てていこうと学校ぐるみで取り組みをスタートさせた。

「２分前行動」とは、文字通り授業の開始２分前には教室に入り､着席して授業の用意、準備を整えるという行動である。これを学校生活のあらゆる場面で意識させた取り組みを実践していったのである。

この「２分前行動」の取り組みには学級のリーダーを中心に生徒たちの自主的な活動として進めていった。さらに各学年ごとにスローガン、呼びかけ、掲示物の作成等学校ぐるみの運動として展開を広げた。

かつて儀式で体育館へ集合するのに２０分以上もかかっていたものが、今日では開始時刻前に全校が整然とした状態で集合できるまでになってきている。まさに「２分前行動」の成果である。

（４）毎週の全校朝会による全校での集団活動訓練

かつて全校生徒が集まる集会は年に数回しか実施してこなかった。それは集合にかなりの時間がかかってしまうことと、整然とした集会にならずにおしゃべり等が多く教師側の

注意ばかりだったからのようである。

職員会議で毎週全校朝会を実施するという提案をしたときには、このような理由から反対であるという強い意見が出された。

しかし、きちんとできないからこそ全教職員で指導に当たり学校ぐるみで集団訓練する「場」や「機会」とこの全校朝会をとらえて実践していきましょうと語り、「まずは実践から」という思いでスタートした。

体育館ではおしゃべりをしない、静かに話を聴くことをルールとして指導に当たった。朝会の内容については、教務担当が工夫を凝らして、単なる報告連絡だけではなく、生徒を評価するようなユニークな内容も盛り込んでいった。

学級担任による「学級自慢」では各担任が工夫を凝らした学級自慢を披露し、生徒も心地よく話を聴くことができている。

また一昨年１２月の朝会では図書整理員さんが東日本大震災の被災地へ図書館ボランティアに参加した体験をスライドを交えて話してくださったりもした。

おもしろいもので、毎週一回の全校朝会が習慣化してくると、整然とした状態になるにもさほど時間はかからなくなってきている。４年目を迎えた今年度は、さらに「一歩前進」させて、体育館へ「無言入場」に取り組んで生徒をさらに「一段高く」高めていきたいと考えている。

（５）きめ細かな指導を徹底するために個別指導を英語・数学で実施

生徒が授業に参加せずに校舎内外を徘徊する主な理由は、学習がわからないことがあるように感じている。正門前のたむろは解消されたものの、授業に臨む姿勢はまだまだである。机に伏せってしまう生徒も少なくはない状況。

そこで、特に学力差が大きく出る英語と数学について、２クラスに分けての授業編成とした。通常授業と個別指導授業である。

新学期を迎える前に家でよく相談して保護者の理解を得ることと本人がやる気で参加することを条件としてこの個別指導をスタートした。１０名前後の生徒が参加している状況である。今まで授業でいわゆる「お客さん」であった者が、しっかりノートを取り、先生の話を聴き、学習に取り組む姿が増えてくるとともに、授業中に寝る生徒もほとんどいなくなってきている。

生徒の学習への姿勢も変わりつつある。生徒だけでなく、保護者からの反応も良い。３年目には３年生だけでなく、２年生の数学も同様の展開へ拡大しているところである。

夏季休業中に１４日間実施している補習には毎回１００人前後の参加者があり、学習へ向かう姿勢も変わりつつあるように感じている。

（６）生徒の活動の「見える化」への取り組み

自分に自信がなく、ほめられる経験が少ないため、自己有用感が乏しい生徒が多いのが現状である。このことは生徒の学校生活全般にわたって垣間見えることである。

「ほめて伸ばす」という取り組みを授業の場面、学級の場面、行事の場面等で積極的にかつ意図的に展開し、広げていこうと機会あるごとに校長から教職員へ呼びかけている。

そして生徒のがんばっている様子や状況を積極的に発信し、みんなに知ってもらうことで自己有用感を高める取り組みを具体に進めることとした。

本校では創立以来「あいさつ・清掃・合唱」の三本柱を中心に生徒の自主的活動が行われてきたが、生徒の自主的な活動とはほど遠い。

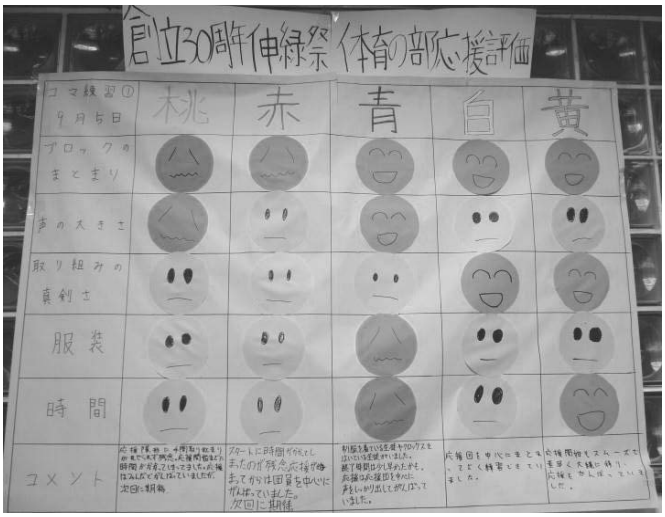
そこで、生徒会本部が中心となり、あいさつ、清掃、合唱のプロジェクトチームを作り、積極的に全校へ呼びかけ運動を展開した。また掲示物を作成し、意識をも盛り上げた。さらには、あいさつの重要性を考えたスローガンを募って、あいさつ運動の幟旗を作成し、

あいさつ運動を定期的に正門前で実施するようになった。地域のボランティアの方々と連携して一緒に行うようにも進めた。

幟旗をたててのあいさつ運動の呼びかけであり、地域の方からも応援の声が上がり、評判も良い。

また、生徒会活動が「見える化」になるように生徒会活動の掲示板を校舎内で生徒が一番目につきやすい場所へ移動した。生徒会本部だけでなく、さまざまな活動を見える化させる中で、活動の活性化を促している。

【参考資料２　学校体育祭の部　取り組み状況】



（７）学校外の教育資源の活用の取り組み

学校だけでは望ましい教育活動が成り立たない時代である。地域や保護者の理解や協力なくして学校は存在できないとも考える。積極的に保護者や地域の方々の協力を引き出す取り組みを始めた。一つは、夏季休業中や１２月、１月の毎週土曜日に実施する学習会でのボランティアである。生徒へ学習を支援していただくボランティア先生の取り組みである。

もう一つは、地域に学校を支援するためのボランティア組織を立ち上げたことである。子どもたちに本物を触れさせようという趣旨から、交響楽団を招聘して生の演奏を聴かせていただく機会をつくっていただいた。こういう組織を拡大していくことで地域とのコミュニケーションがさらに深まり、学校への理解もさらに進んでいるように思う。今年は３年目になり、数人のボランティアから十数人へと増え、大学生や高校生などの若者をも組織へ加えていきたいと考えている。

【本物にふれよう　開催周知ポスター】

５　研究の成果

正直なところ、一年間で正門前のたむろ、茶髪、異装等がこれほどまでに改善できるとは思っていなかった。おそらく数年間はじっくり取り組まなければならないだろうと覚悟をしていたが本当にうれしい誤算であった。

１年目は、まず正門前のたむろ、茶髪、異装を正すことを最重点として取り組んだ「一点突破作戦」。これが改善できたので、２年目以降は「全面展開作戦」である。さまざまな取り組みを「できることをできるところから」展開している。

いつものように校舎内外を回り、ゴミ拾いをしていると教室から合唱の歌声が聞こえてきた。学校祭を間近に控えてクラスで自主的

【参考資料４

学校を理解するためのアンケート】

資料 NO 1

学校の現状を理解するためのアンケート

なまえ（　　）

1　次の問題行動（問題行動レベル）について本校はどこに位置するか、該当するところに○で囲んでください。

	軽度	中度	重度
授業態度	おしゃべり	立ち歩き	スケープ
服装・頭髪等	スカート丈	茶髪・化粧	革ジャン・サングラス
器物損壊	いたずら書き	ガラス・天井	非常ベル・消火器・放火
喫煙	家の中	学校で隠れて	学校で堂々と
暴力	けんか	いじめで軽傷	いじめで重傷
地域で	たむろ	万引き	バイク・飲酒

2　次の指導項目（指導困難度）について本校はどこに位置するか、該当するところに○で囲んでください。

	軽度	中度	重度
発生の頻度	まれに	時折り	毎日のように
関わる生徒数	一人	数人	多数
指導への態度	従う	たまに反発	常に反発

3　昨年までと本年度で変わってきたことについて具体的に、できるだけたくさん記入ください。

昨年度まで	本年度
（例） ○自転車を校舎内で平気で乗り回している。	○自転車で乗り回す生徒はほとんどいなくなった。

資料 NO 2

学校の現状を理解するためのアンケート　**集　計**

なまえ（　　）

1．次の問題行動（問題行動レベル）について本校はどこに位置するか、該当するところを○で囲んでください。○の場所は各レベルの中間等どこでもかまいません。

	軽　度	中　度	重　度
授業態度	お[illegible]	立ち歩き	エスケープ
服装・頭髪	ス[illegible]茶髪・化粧	○	革ジャン・サングラス
器物損壊	い[illegible]ラス・天井	○	非常ベル・消火器・放火
喫　煙	家の中 [illegible]れて	○	学校で堂々と
暴　力	[illegible]いじめで軽傷	○	いじめで重傷
地域で	[illegible]万引き	○	バイク・飲酒

2．次の指導項目（指導困難度）について本校はどこに位置するか、該当するところを○で囲んでください。○の場所は各レベルの中間等どこでもかまいません。

	軽　度	中　度	重　度
発生の頻度	[illegible]に	[illegible]	○ 毎日のように
関わる生徒数	○人	[illegible]	○ 多　数
指導への態度	[illegible]	[illegible]	○ 常に反発

3．昨年までと本年度で変わってきたことについて、具体的にできるだけたくさん記入してください。

昨年度まで	本年度
・正門前で乱することが日常的だった	←正門前で乱することがなくなった（2）
・校門付近に乱する生徒が複数おり、誤再したり様子を見たりが頻繁だった	←正門前の乱が激減した（2）
	←正門前の乱がほとんどなくなった（１２）
	←正門前の乱がＺ学期になり皆無になった（2）
	←正門前の乱が減によった
	←乱する生徒が地域へ移動、他校生との交流が目立つようだ
・校門でのあからさまな喫煙	←非常階段等でたまに見られるようになった
・校門、校舎内での喫煙	←校舎内での吸い殻はほとんど見つからない
・昇降口や校門での食い散らかし	←校門付近にはまだゴミが落ちていることがあるが昇降口はなくなった
	←４月当初より目を追うにしたがって朝の校門のゴミ処理をすることが減ってきた
・他校生が頻繁に来ていた	←他校生が来ることがなくなった
・勝手に校外に出る生徒がいた	←勝手に校外へ出ることがなくなった（2）
・学校への出入りに制限がなかった	

・茶髪や異装の生徒がいたり土足のまま校内で生活する者がいた	←茶髪等がなくなったわけではないが、直すまで中に入れないといった指導ができるようになった ←茶髪はほぼいなくなった ←女子の化粧　全髪は来なくなった
・短ｽﾗｯｸｽなどの異装で校舎内をふらつく	←異装も数人になったがゼロを目指して頑張りたい ←ほとんどなくなった ←パーカーなどはまだ着用していることがあるが、短ｽﾗｯｸｽはほぼなくなっている（2）
・校舎内を外履きや私服で過ごす生徒がいた。また、それを注意や排除できなかった	←土足や異装で過ごす生徒がいなくなった。また、そういう生徒いても注意や直すことを促せるようになった
・授業中の教室への勝手な出入りや授業妨害があった	←勝手な出入りとそれによるトラブルがなくなった
・対教師暴力や頻繁に暴言をはく者がいた 態度の悪い生徒が多かった ・授業を抜けたり教室に入らず校内徘徊をする者がいた	←反社会的傾向の生徒も授業の抜けはしない ←対教師暴力はなくなった 暴言も減った ←生徒と素直に向き合える場面が多くなった ←校内徘徊がなくなった ←校内徘徊がほとんどなくなった ←エスケープがほとんどなくなった ←現在はほとんど見られない
・校内の壁への落書き 掲示物へのいたずら	←壁への落書きはなくなってきている。机への落書はある。 ←落書き や掲示物へのいたずらがかなりなくなった ←少なくなったがゼロではない ←掲示物の小さないたずらが多くなった
・準備室のガラスへ火を近づけ、黒くする生徒など危険ないたずらがあった ・秩序のない学級が目についた ・一般生徒にけじめがなく、だらしない行動があった ・カバンから頻繁に金品を盗られる ・（普通の生徒でも）授業に平気で遅れる	←学級に秩序を感じることが増えてきた ←一般生徒が落ち着いて学校生活を送ろうとしている ←嫌もいない教室に入り込みカバンから金品を抜くとがなくなった→特別教室でも間に合うように動けるようになった
・ゴミの散らかり ・アメやガム等のごみが多かった	←わざと落としたままの一部生徒を除きゴミの散らかりがほとんどなくなった ・アメガム携帯の持ち込みがある
・頻繁に消化器が噴射され常設できなかった ・プリント類を窓から投げる者が多かった	←消化器を定位置に常設できるようになった（2） ←プリント類の投げ捨てがまだあるが少なくなった ←一部の生徒だけになった
・トイレからペーパーが落とされることが度々あった	←トイレからペーパーが落とされることがほぼなくなった
・携帯をいじりながら廊下を闊歩する者がいた	←携帯をいじりながら廊下を闊歩する者がほぼいなくなった
・不要物の持ち込み（トランプ等）について学年で違いがあり指導しにくい部分があった	←第一～生徒指導で、他学年の職員も指導がしやすくなっている

・特に３年生において清掃時ジャージに着替えない生徒が多数いた	←清掃の取り組み自体はあまり変わらないように思うが服装については着替えるようになっている ←清掃時体操着姿がほとんどになった
・掃除に関して体操着に着替えない、雑巾を持っていない生徒が多かった。取り組みも悪かった ・ｽｶｰﾄ丈、ﾀｰﾃﾞｨｰｼﾞｬﾝ	←委員会や生徒会の取り組みで、着替えない・雑巾を持たない生徒が少なくなった ←女子のｽｰﾃﾞｨｰｼﾞｬﾝがカラフルすぎる。制服の下に着る物であれば黒・紺・灰などの指定をすべき（面倒は言授者なし）
・朝学活に標準服でない生徒がいた ・ｽｰﾃﾞｨｰｼﾞｬﾝ下校が多数いた ・全校朝会の時整列に時間がかかりおしゃべりがなかなかやまない ・問題行動があった場合、共有化し細かい指示があった ・ﾁｬｲﾑが鳴っても生徒は廊下にいた ・下校時間後も学校内に多数の生徒がいる	←ほぼ全員が標準服で朝学活に出席している ←きちんと制服で下校するようになった ←全校朝会では、定刻に始めることができしゃべる生徒はごくわずかになった ←オープンでない ←ﾁｬｲﾑで生徒が教室にはいるようになった ←下校時間を守るようになった ・授業開始時間を生徒が意識して時間厳守するよう意識してきた ・「わからない」という生徒が学習をわかりはじめている ・部活や一斉下校を全職員が指導している ・授業が整然と行われていることが多い ・休み時間も教室にいる先生が多くなった ・声をかけると職員が一斉に動く ・授業道具の忘れ物多い ・授業に筆記用具を持参しない（特に３年） ・すでに「そんなの聞いてない」と言う ・掃除の時間が遊びの時間と化していることがある ・廊下を走り回る生徒が多い ・借りた物を返さない（たまに） ・使用した物をもとに一に戻すことが全体的にあまりできていない気がする ・他人の作品へのいたずらは少ない ・持ち主不明の雑巾が落ちていない ・教室清掃用具庫の扉は比較的壊れていない ・清掃用具の破損が少ない ・防災頭巾へのいたずらがほとんどない ・教科書やワークの紛失が少ない ・黒板消しの破損やチョークでのいたずらが少ない

資料 NO 3

内出中学校だより

内出中学校の校長室から

No.３４《学校評価特集号》平成２３年　１月２８日発行

22年度の内出中学校の通知票です

評　価　項　目	平均点
1　学校長の教育方針や学校経営方針は教職員に明確に伝わった。	３．８
2　学校長の教育方針や経営方針を受け、その具現化に向けて取り組むことができた。	３．４
3　学校としてそこで生活する人の安全や安心を保障できるような教育活動が行えた。（暴力行為を認めない、異装・茶髪への指導、正門前や周辺へたまる事への指導等	３．４
4　時間を守ることに取り組めた。（授業開始終了、部活登下校、集会時の集合等）	３．１
5　うわばきのかかとつぶしをなくす。	２．６
6　清掃時には生徒も職員も担当場所へ行く。	３．１
7　一人ひとりが分かる授業に取り組めた。	３．０
8　生徒や教職員ががんばっているところを様々な手だてで積極的に紹介することができた。	２．９

４：とてもそう思う　３：そう思う　2:あまりそう思わない　１：そう思わない

○　子どもたちの成長の歩みは、学期ごとに通知票としてお知らせしています。これと同様に学校自身の改善のために毎年学校評価を本校でも実施しています。

○　２２年度の学校評価については、年度当初に全教職員からのアンケート等をまとめたものを「内出中学校改善のための６つの具体的な取り組み」として、この一年間、全教職員で取り組んできました。この取り組みの項目を中心にアンケートを実施し、集計した結果が上の表です。

そして、このアンケート結果を基に上で先生方で話し合いをもって本年度の学校評価としました。

○　４段階評価ですから３．０以上の評価はまずまず及第、合格点と言ったところだと思います。手前みそですが、全体的によく頑張っていると評価できると思います。もちろん、子どもたちも先生方もです。

○　ところで、本来学校評価は、学校がいいか、悪いかとかのランク付けをするものではありません。一年間の学校の取り組みがどうだったかをふり返って、学校改善に生かしていくようにするのが学校評価の目的です。わかりやすく言えば、「学校が元気が出ると、また元気になるような」学校評価をすることだと思います。

【後記】大切なことは、この評価をしっかり受け止めて次年度へ生かすことです。そして、保護者の方々には、きちんと学校の取り組みを理解していただくことだと考えています。

資料 NO 4

内出中学校だより

内出中学校の校長室から

No.３５《学校評価特集号》平成２３年　１月２８日発行

22年度の内出中学校の通知票をよく見ると・・・

1　学校長の教育方針や学校経営方針は教職員に明確に伝わった。

◇具体的に話しをしてくださるので、わかりやすい。◇とても明確で、動きがとりやすかったです。◇常に具体的な方針が示され、職員がすぐに行動できる。◇シンプルなメッセージがわかりやすかった。◇始業時の打ち合わせでの話し、学校便り、ふだんの会話からとても良く伝わった。

2　学校長の教育方針や経営方針を受け、その具現化に向けて取り組むことができた。

◇職員が協力して取り組めた。◇職員の意識や姿勢は個人差があるが、おおむね統一歩調で取り組めた。◇良い方向に向かっている実感があります。◇校門前の指導、茶髪、異装を認めないということを継続することなく、全員で注意できたと思う。

3　学校としてそこで生活する人の安全や安心を保障できるような教育活動が行えた。

（暴力行為を認めない、異装、茶髪への指導、正門前や周辺へたまる事への指導等）

◇異装や正門前のたまりは大幅に改善されたように思う。◇生徒指導に関しては、全職員で取り組めた。◇職員が一丸となって同じ動きができていたと思う。◇協力して取り組めたが、生徒の理解度は今一歩だった。◇単に禁止するのではなく、納得のいくような学年を中心にさまざまな先生方の努力できちんと教育活動が行えていたと思います。

4　時間を守ることに取り組めた。（授業開始終了、部活登下校、集会時の集合等）

◇意識して取り組めた。◇職員が動くことによって、生徒全体もできつつあると思う。◇部活の下校時間はほぼ守られている。◇職員が早ず自ら早めに移動するなどの姿が見られる。◇「まず教室に入る」「集合場所に行く」という目標は達成できたと思う。しかし、これが到達点ではなく、生徒が「授業を受け始める」「話しを聞き始める」が本当の目標であることを肝に銘じていきたい。

5　うわばきのかかとつぶしをなくす。

◇最近は注意しているせいか、効果が出てきているのか、かかとをふんでいる生徒の数は減ってきているように思われる。◇注意をすれば直すが、なかなか自主的に行うことができないように思われる。◇意識化されてきたが、今後も取り組みが必要。◇少なくなっている。生徒にそういう意識をさせたこと自体が重要であると思われる。

6　清掃時には生徒も職員も担当場所へ行く。

◇忙しい中ですが、全職員が監督場所に行っている時間をより長く作りたいです。◇３本柱の一つとしているので、生徒だけでなく職員も同じように動くべきだと思う。◇掃除の状況も徐々によくなって来ていると感じています。◇がんばって指導しました。◇教室とトイレはきれいに、機械的に生徒が動けたと思う。どのクラスよりも早くきれいにを目標にやってこられた。

7　一人ひとりが分かる授業に取り組めた。

◇公開授業などで、これまでの授業実践のより返るよい機会となった。◇年度当初に確認した授業改善の視点を意識して取り組んでいる。◇まだ多くの課題がある授業である。

8　生徒や教職員ががんばっているところを様々な手だてで積極的に紹介することができた。

◇学校便り、学年便り、学級通信で多くの情報が保護者に向けて発信されていると思います。◇学校便りの効果は絶大なものがあったと思います。◇クラスの生徒のことを話題にしていただき、本人たちの励みになっています。

【後記】アンケートについて先生方の声のおもなものです。「良い方向に向かっている」と実感できていること、そして「全員で指導に当たれている」とほとんどの先生方が感じることができていることを高く評価したいです。課題については、今後も継続して取り組みます。一歩、一歩。

に始業前に集合しての練習のようだ。このような光景がごく当たり前のようになってきている。このような段階になったことが、学校あげての大きな成果である。

取り組みをスタートした１年目の学校評価の資料の一部を次に示すことで具体に改善されきていることが分かると考える。

６　今後の課題

個々の子どもが抱えている課題は深刻であり、少なくない。そんな子どもたちを多く抱えている本校では常に子どもたちとの関係を築きながら「ダメなものはダメ」といった毅然とした姿勢で臨むことが必要である。

このような状況の中でも生徒一人ひとりに「生きる力」を育むという主題に取り組んできたわけである。

生徒指導を根幹にすえながらあらゆる教育資源を活用して取り組んだ成果が出てきているが、まだまだの感がある。教員自身の授業力の向上、組織としての取り組み、地域保護者との連携など常に改善を図ることを念頭に置きながら今後も取り組みの歩みを進めて参りたい。

７　おわりに

これからも「できることをできるところから」の思いで、全教職員の「全員野球」で、凡時徹底の精神で、常に「一歩前進　一段高く」学校改善をめざしていく姿勢を持ち続けたい。

しかしながら私たちには気づかない点も多々あるかと思っている。是非、さまざまな視点からのご指摘、助言等をたくさんいただいて教職員一同で今後の学校の教育活動にさらに活かしていくようにしたい。